受け継がれる、六つの舞

今は、一つの行田市。けれど、その中で受け継がれてきたささら獅子舞は、地域ごとに姿が違います。三頭の呼び名も、演目も、巡る場所もそれぞれ。一つのまちに息づく、六つの違いをたどります。

野

雌獅子は、どこへ消えた？

野の獅子舞は、文政4(1821)年の祭礼記録に「簓(ささら)」の文字が残ります。 五穀豊穣や疫病退散、家内安全を願い、地域の寺社を巡って奉納します。見どころは、物語仕立ての「雌獅子隠し」です。雌獅子が姿を消すと、二頭が探し回り、やがて争いへ。三頭の動きを追うほど、舞台劇のような物語に引き込まれます。



在家

一軒一軒を訪ねていく獅子

在家の獅子舞は、古くから村中を巡り、豊年万作を願ったと伝えられています。河原神社で舞を奉納する他、特徴的なのは地区内の全戸を巡る「厄神除け」。獅子が一軒一軒を訪ね、災いを払い、地域の安全を願う、暮らしに根付いた習わしです。





下中条

ともに残る獅子舞と棒術

下中条の獅子舞は、天明年間(1781 ～ 1789年)の洪水で獅子頭が流れ着いたという伝承や、慶長年間(1596 ～ 1615年)の開拓とともに始まったという伝承があります。「鐘巻」などの舞に加え、大きな特徴は「棒術」。棒や刀を使った力強い技と獅子の舞がともに受け継がれています。市内6地区で唯一の県指定無形民俗文化財です。





長野

獅子の紙飾りは、お守りに





長野の獅子舞は、正徳3(1713)年、久伊豆神社の祭礼で始まったと伝わります。「笹掛り」「鐘巻」「花割り」「弓」などを奉納。演舞後には、獅子頭の後ろ髪に使われた紙飾りを観客へ分ける習わしがあり、災難除けや五穀豊穣につながると伝えられています。

若小玉

舞で描く、八岐大蛇退治



若小玉の獅子舞は、文化11(1814)年、村の若者たちを中心に始まったと伝わります。 代表的な「鐘巻」では、須佐之男命が八岐大蛇を退治する神話を三頭の獅子が舞で表現。 舞の最後には、子どもの健やかな成長を願い、見物に来た子どもを鐘の上に座らせる場面もあります。

馬見塚

場所で変わる、舞

馬見塚の獅子舞は、神明社をはじめ地域の寺社を巡り、場所ごとに異なる舞を奉納します。諏訪神社では「稲穂」、不動様では動きの速い「ぶんなぐり」など、ここならではの演目も。場所によって異なる舞が受け継がれていることが大きな特徴です。



舞に宿る、地域の記憶と人のつながり



東京藝術大学　教授
植村　幸生さん

私は10年ほど前から関東地方各地の三匹獅子舞を訪ね回っています。学生の調査実習を兼ねることもあります。行田市域のささら獅子舞の中で特徴的な演目の一つが、4カ所で伝承される《鐘巻》です。いわゆる「道成寺」の物語をモチーフにしながら、蛇が鐘から現れて獅子や面花とからんだり、花火をたいたりと、どこかユーモラスな演出となっています。蛇はかつてこの地を悩ませた水害の象徴なのかと思いますが、それを笑いに変える当時の人びとのたくましさを感じさせます。

取材のたび、保存会はじめ地元の方々からのご好意と親切にはいつも助けられています。民俗芸能を伝えるコミュニティー特有の結束と温かみを感じる瞬間でもあります。近年の社会状況、コロナ禍、異常気象にもかかわらず、この伝統を慈しみ守っておられる皆さまに心より敬意を表し、よそ者ながら、一研究者として行田のささら獅子舞を応援し、できるお手伝いをしていきたいと考えています。

ささらを受け継いできた人たちも、最初から「後継者」だったわけではありません。「誰かに誘われた」「舞を見た」「音に惹かれた」始まりは、そんな小さなきっかけでした。

受け継ぐことは、舞うことだけではありません。今度、ささら獅子舞を目にしたときは、少しだけ足を止めてみてください。そこに、地域がつないできた時間が見えてくるはずです。

▶問い合わせ　文化財保護課☎553―3581

動きと音で見る、ささら獅子舞

写真では伝えきれない三頭の動きや笛の音、祭りの空気を動画で。六つの地区に受け継がれる舞をご覧ください。